

平成27年度 文教福祉環境常任委員会行政視察報告

(平成27年10月28日～10月30日)

「視察先」

沖縄県 教育庁義務教育課

： 学力向上「夢・にめふあ星プランⅢ」について

沖縄県 宜野湾市 名護市

： スポーツ関係施設の整備状況について

南風原町 南風原文化センター（戦争遺産の見学）

「視察者」

日高 和広・三樹 喜久代

黒木 高広・富井 寿一

森腰 英信・柏田 公和



(視察時の様子:宜野湾市立体育館前)

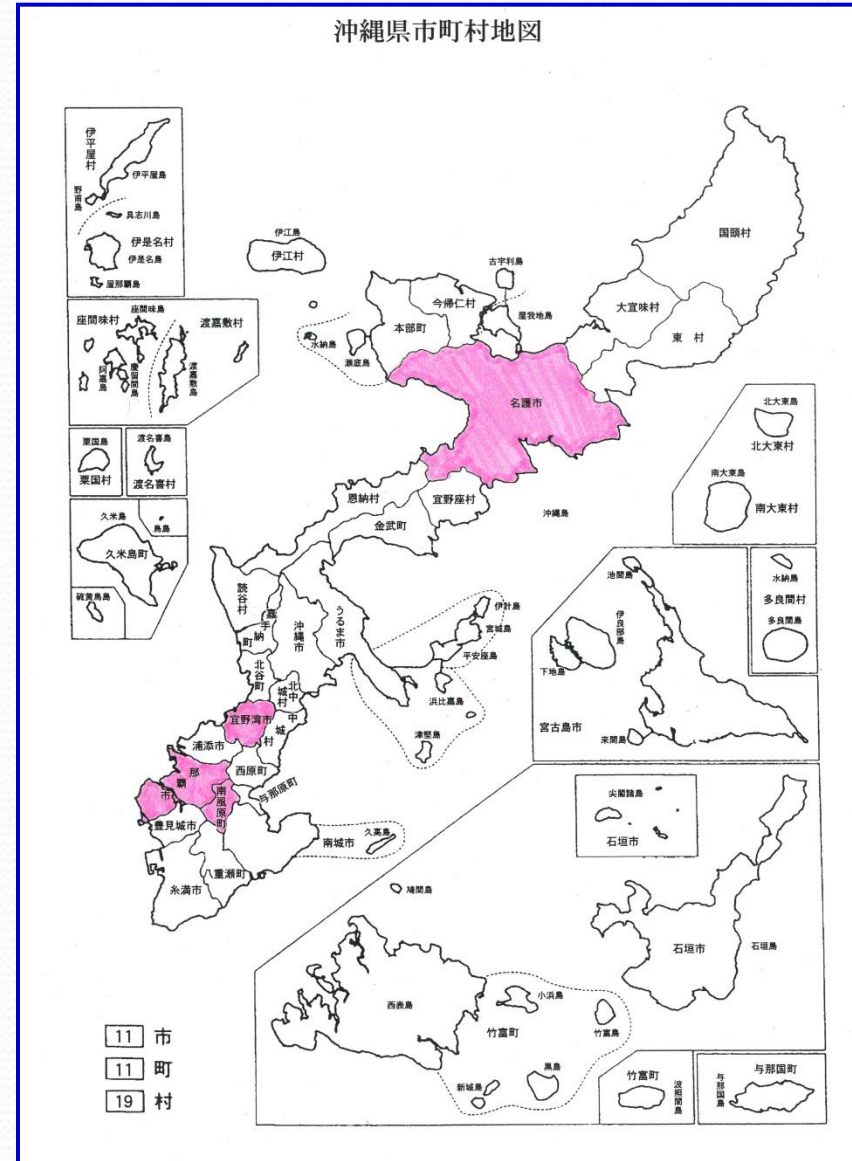
沖縄県

■ 面積：2,276.72km²

■ 人口：1,428,647人
(平成27年9月)



沖縄の透き通るような海



沖縄県ホームページ公開資料
「沖縄県市町村概要(平成27年3月)」より

はじめに ～ なぜ沖縄県を視察先に選んだのか・・・

本来であれば、全国学力学習状況調査でトップの秋田県に視察に行くところであるが、平成19年に始まった全国学力学習状況調査において厳しい現実をみせつけられた沖縄県が、学力向上を目指し、全国トップである秋田県の教育環境を学ぶため、人事交流をはじめとした沖縄独自の学力向上に向けた、教育環境整備を開始した。

(夢・にぬふあ星プラン)

この施策に取り組んだ結果として、小学校6年のA問題分野において、平成24年度と比較し全国順位が上昇の傾向が見られた。このようなことを受け、本市の更なる学力向上に向けた環境整備に必要な、人、物、金の有効活用を学ぶために沖縄県を視察先に選んだ。

1. 『夢・にぬふぁ星プランⅢ』について

(1) まず『夢・にぬふぁ星プランⅢ』とは・・・？

にぬふぁ（北極星）は、先人にとって、大海原を航海するときの道しるべであった。学力向上推進の施策が、沖縄県の幼児児童生徒によって、自分の「夢や希望」に向かってひたむきに前進することを支援するものになるよう願う、「夢・にぬふぁ星プランⅠ、Ⅱ」の精神の継続と更なる充実を願い、「夢・にぬふぁ星プランⅢ」とした。

また、サブテーマとして、現在の学びが将来の夢の実現に繋がることをメッセージにした「虹色・未来への架け橋」を採用した。



(2) 『夢・にぬふぁ星プランⅢ』の概要

現在の『夢・にぬふぁ星プランⅢ』は・・・

このプランは、4年スパンで県の学力向上施策を書いているものとなっており、4年ごとに改訂をしながら、また新たな施策を盛り込んでいくものとなっている。現在のプランは24年度に作成されたもので、作成された当時から少しずつ変化もあり、次年度から新たな「にぬふぁ星プラン」の作成に着手していく段階である。

なぜ必要だったのか・・・

平成19年に初めて全国学力学習状況調査が実施された。これまで沖縄県としても、学力向上は重点課題として色々な施策を取組んできたため、全国トップ、中間点とは言わないでも、最下位ではないと思っていた。しかし、実際に受けてみたところ、手も足も出なかったというのが現状であった。

そこで・・・

原点に戻り、たくさん覚える、たくさん量をするのではなく、**授業、先生方の質を高めることを中心とした施策**を進めることにした。

『学力向上主要施策』に関する意識調査の結果に基づいた 評価及び全国学力・学習状況調査結果より明確になった点

保護者の声として・・・

- ・学力向上の取組は、今後も必要だと思う。
- ・児童生徒一人一人に各学年の学習内容を確実に身に付けさせる取組みを希望している。

児童生徒の声として・・・

- ・国語、算数・数学が将来社会に出た時に役立つと思っている。
- ・国語、算数・数学の勉強が好きである。

教師の声として・・・

- ・学力向上のため、学習時間の設定、家庭学習の点検の徹底が必要と考える。
- ・学力向上のため、学校行事の精選や見直しが必要と考える。
- ・**授業力向上**のための研修会が必要と考える。



保護者、児童生徒、教師の声から、授業改善を通して、普段の授業の中でも、生徒と結びついた学習を行うことで、児童生徒に「学ぶ意識」を実感させ、意識づける取り組みや家庭の教育力の向上を図る取り組み、主体的な研修会を実施する必要がある。

秋田県との人事交流の実施

◎背景と概要

- 平成20年度全国学力学習状況調査2年連続最下位の結果を受け、全国トップの秋田県の教育実践内容を本県の教育学校の参考にしたいという教育長の思いから、平成21年度に秋田県との人事交流がスタート。
- 毎年、それぞれ**2名の教諭を相互派遣**している。

◎方針・考え方

- 教員を相互に派遣することにより、それぞれの県、学校の課題や新しい教育観及び指導の在り方について識見を深め、社会の変化に適切に対応しうる資質の向上と意識の改革を図り、学校教育の振興に資することを目的とする。
- 「**わかる授業**」の構築の取り組みを継続し、**教師一人一人の授業力を高める**。
- 秋田県派遣教諭及び秋田県から派遣された教諭を活用し、**秋田の取り組みに学ぶ場の設定**を行う。

◎これまでの取り組み

- **秋田県からの派遣教諭の活用**
 - 講演会の開催（H26年9回開催）、研修会の実施（参加者1,148名）
- **秋田県へ派遣した教諭の活用**
 - 授業改善アドバイザーや指導主事として、秋田県で学んだ内容等の普及を図る（H26年度アドバイザー1名、H26年度指導主事4名）
- **市町村教育委員会や教育事務所等の取り組み**
 - 西崎方式の授業改善・ノート指導、考え方を書く活動
 - 学力向上推進実践発表会講師

◎現状・取り組みの経過

- 平成26年度全国学力学習状況調査の結果は、小学校で全国水準となる。
- 交流事業は、次年度以降も継続予定である。

◎成果

- ・派遣教諭の活用を通して、授業改善が行われている。
- ・秋田県の取り組みを、講演会、公開授業、研修会等で広めている。

◎課題

- ・秋田型教育の良さを取り入れた教育課程編成、教育改善の全県的な取組が十分ではない。派遣教諭の効果的な活用を通して秋田型教育の良さを更なる普及
- ・「授業の改善・充実」について、教師一人一人の意識の高揚。

◎今後の取り組み

- ・学力向上主要施策との関連で、教育事務所担当者会や各種研修会、教育庁学校計画訪問で周知を図る。
- ・人事交流については、次年度以降も継続予定している。

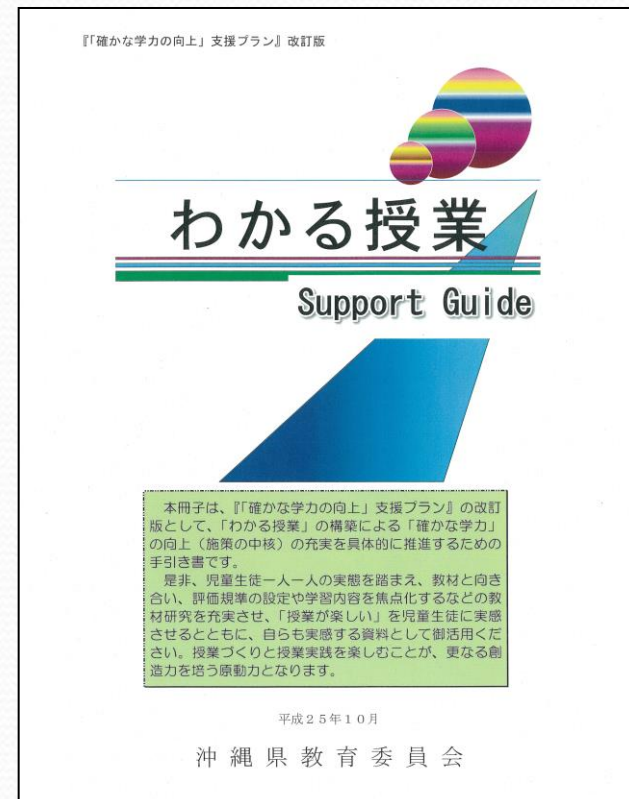
(3) 『夢・にぬふぁ星プランⅢ』の取り組み

★目標として★

幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、
「生きる力」を育む

★重点取り組みとして★

1. キャリア教育の視点を踏まえた
「確かな学力」の向上
2. 「わかる授業」の構築による
「確かな学力」の向上
3. 学力向上マネジメントによる
「目標管理型評価システム」の推進



(4) キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上

① 教育行政の取り組み

- 児童生徒に「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させるため、「地域教育資源」の活用を推進する。
- 生徒の目的意義の高揚を図り、早い時期から自らの進路（進学・就職）を意識させる取り組みを推進する。

② 学校の取り組み

(1) 幼稚園

- キャリア教育につながる幼児の姿を意識して、保育の改善を図り、幼稚園教育でならいとしている心情・意欲・態度を培う。
- 自分で好きな遊びを見つけて楽しむことができる環境構成をする。
- 地域に親しみをもち、身近に働く人々の様子に興味を持たせる。

(2) 小・中学校

- 児童生徒にとって「学ぶこと」が実社会とつながっていることを実感できる日常的な学習や体験活動等を通して、「なりたい自分」と「なれる自分」を広げることのできる授業を実施し、児童生徒の進路選択の幅を広げる。
- 「地域教育資源」の活用にあたっては、保護者等が学習に参画するための具体的な計画を立案する。

(3) 高等学校

- 生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じて、計画的・組織的なキャリア教育を推進。
- 有効かつ円滑にキャリア教育を実施するため、中核的役割を担う教員の養成に努めるとともに、学校全体で計画的、組織的、継続的な取り組みを推進。

(4) 家庭・地域の取り組み

- 家庭においては、子どもに「働くこと」と「勉強すること」は密接な関係があることなど、将来の夢や希望について子どもと語り合う。
- 学校が、地域の社会教育施設等を活用して体験活動を実施する際には、学校との円滑な連携・協力を図る。



(視察時の様子 : 沖縄県教育庁義務教育課)

(5) 「わかる授業」構築のための取り組み

①教育行政の取り組み

- 教育委員会は、「目標（総括目標・推進目標、取組事項）」を示し、市町村教育委員会と学校との「目標連鎖」による連携を図り、学力向上推進の取り組みと成果を明確にする。
- 小学校でのスポーツ少年団や中学校の部活動においては、終了時刻厳守、定期テスト1週間前程度の部活動停止期間の設定等、児童生徒の家庭における学習時間を確保する取り組みを推進する。

②学校の取り組み

(1) 幼稚園

- 幼児が互いにかかわりを深め、共同する経験を積み重ね、「協同的な学び合い」へ発展するよう年間指導計画に位置付けする。
- 幼稚園と小学校の教職員との合同研修会を実施する。

(2) 小・中学校

- 指導力向上のために教師一人一人が主体的に参画する校内研修のあり方を工夫する。
- 「県学力到達度調査」や「全国学力学習状況調査」の分析結果からの課題に対応する。
- 「学習規模の徹底」を図るための具体的な取り組みを行う。

(3) 高等学校

- 学力向上を推進するために、校内における「計画・実践・検証・改善」等のシステム構築を図る。
- 高校入試問題及び達成度テストの結果分析を行い、同教科で課題を把握し授業改善に役立てる。
- キャリア教育の充実を図り、進学率・就職内定率の向上を図る。

(4) 家庭・地域の取り組み

- 家庭においては、幼児児童生徒の基本的な生活習慣を形成するために、「早寝・早起き・朝ごはん」を徹底する。
- 幼児児童生徒の言語に関する能力を育成するために、「読書県おきなわ」の取り組みを通して、家庭における読書活動等を充実させる。
(毎月第3日曜日を「ファミリー読書の日」として、家庭読書を奨励)



(視察時の様子 : 沖縄県教育庁義務教育課)

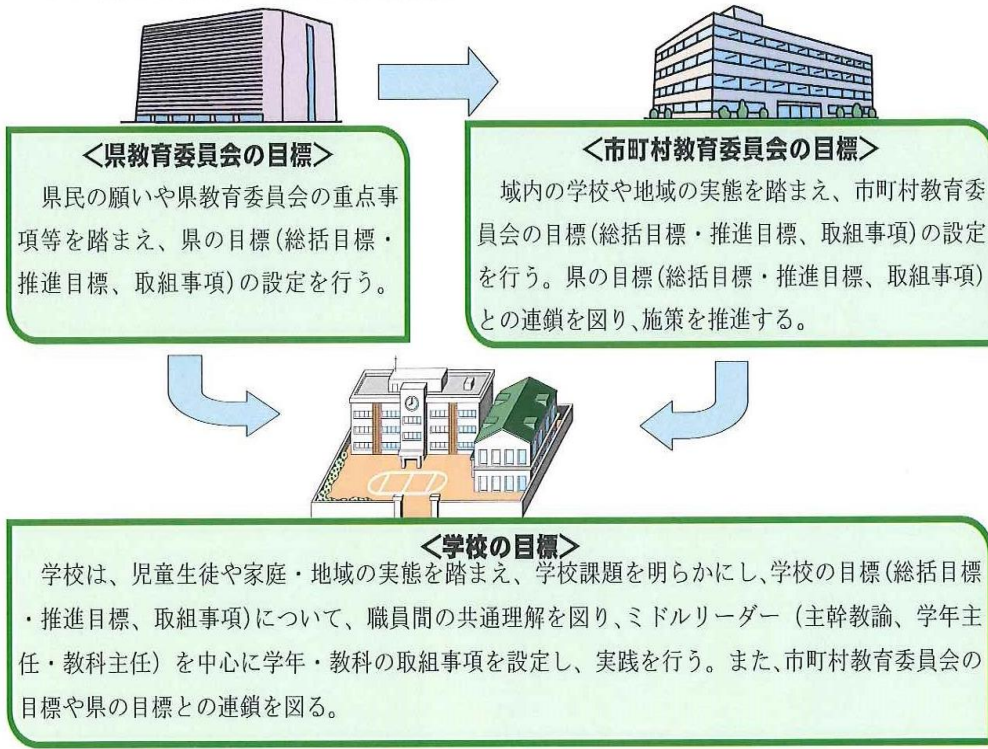
(5) 学力向上マネジメントによる

「目標管理型評価システム」の取り組み

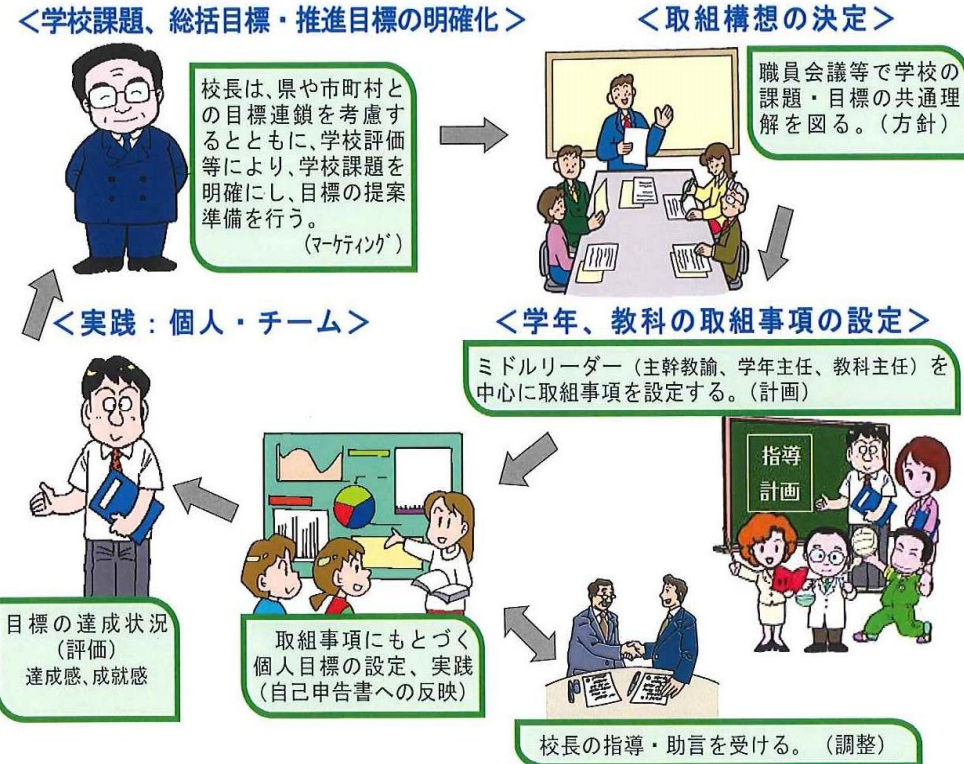
(1) 教育行政と学校との目標連鎖

(2) 校内における「目標管理型評価システム」の流れ

(1) 教育行政と学校との目標連鎖



(2) 校内における「目標管理型評価システム」の流れ



～ 沖縄県義務教育課視察を終えた委員の所感 ① ～

- 施策の効果を計る尺度として学力調査で判断する考え方なのか。各学校現場での子どもの様子が見えないと判断しかねる。部活動の活動時間の規制については、子どもの安心・安全な仕組みがどの様に構築されているのか明確な答弁はなく詳細がわからないが、考え方としては妥当ではないかと思う。地域全体で子どもの健全育成を考えるならば、大きな成果になると理解する。地域で子どもを育てる環境整備と部活動との関係が、沖縄県から先進的な事例として打ち出されることに期待したい。

教育現場は上意下達の雰囲気が強いだけに、現場の空気が委縮しないような施策の展開を願っている。

- 「わかる授業Support Guide」で一律に教師の授業力を高めること、部活動の終了時刻を厳守させること、朝食摂取率を100%にすることなど沖縄県独自の取組みは本市も参考とすべきであると考え。またこれらの取組みの弊害となりうる教師の多忙化について質問したところ「公務改善委員会」にて家庭訪問のスリム化・運動会練習のスリム化等の行事のスリム化に加え、部活動の顧問を校長がイニシアチブを取る形で外部から積極的に招聘し、教師の負担を和らげていることであった。また「NO残業デー」も実行している。本市も「日向市教育大綱」を定め日向市独自の教育に努めているが、更に危機感を持ち先進地に学び、具体的な施策を打ち出す必要性を感じた。

～ 沖縄県義務教育課視察を終えた委員の所感 ② ～

- 各市町村が単独で取り組むのではなく、沖縄県教育委員会が沖縄県全体の小学校中学校等学力向上推進に取り組むことは凄いと思う。学力向上に繋がったのは、各学校の校長、教頭の指導はもちろんであるが、部活動の外部指導者又スポーツ少年団の指導者、保護者等の協力があると思います。日向市においても指導者の方々には少年団大会等の勝敗は抜きにして育成してほしい。
- 基礎になる部分是对応できているが、応用になると付いていけない子ども達への教育について学べたと感じる。全国トップである秋田県との人事交流についての取組みは、相互の教員にとっても刺激になると感じるので、本市においても必要ではと感じた。トップレベルの教育を市独自にアレンジして進めても良いと思う。
- 秋田県でなく沖縄県を視察したことで、トップと最下位の双方の事情を知ることができた。教師の質と管理職の意識の向上が子ども達の未来を大きく左右する重大課題である。改革の実行力が問われる。



(視察時の様子 : 沖縄県教育庁義務教育課)

～ 沖縄県義務教育課視察を終えた委員の所感 ③ ～

- 県民性としてスポーツに力を入れる傾向があり、部活との兼ね合いに保護者・指導者の意識改革に苦勞しているようである。このことは我が市としても抱える問題であり、両立の難しさがうかがえる処である。



(視察時の様子 : 沖縄県議会棟前)

2. 『スポーツ関係施設の整備状況』について

◎視察先

- (1) **宜野湾市**：宜野湾海浜公園 野球場 **他 関係施設**
 (2) **名護市**：名護市21世紀の森公園 野球場 //

◎視察の目的

本市のスポーツ施設は、老朽化し更新時期を迎えている。各施設の今後の整備・改修・維持管理の在り方を検討していくうえで、アマ・プロを含む各スポーツ団体の利活用を増進させる施設整備の方向性・考え方等を研鑽し、本市のスポーツ振興と施設整備事業の推進に寄与するものとする。

(宜野湾市・名護市の各スポーツ関係施設等)



各視察先自治体の現況

宜野湾市

人口 96,257人， 面積19.70Km²

市の中央部に普天間飛行場、北部にキャンプ瑞慶覧(CampFoster)が占める基地の街。西海岸地域に沖縄コンベンションセンターと、宜野湾海浜公園があり、観光・商業地域として発展を目指している。



(宜野湾海浜公園内 : 野球場)

名護市

人口 62,080人， 面積210.38Km²

沖縄本島に属する市町村では最大の面積を有し、北部地域の中心都市で国や県の出先機関が多く商業が盛ん。1979年以降、北海道日本ハムファイターズの春季キャンプが名護市営球場で行われている。



(名護市21世紀の森公園内 : 野球場)

1. スポーツ施設建設の経緯について （宜野湾市）

（1）運動公園

昭和59年に運動公園建設を決定

当時から、現在まで人口増加が続いていることや、昭和62年の沖縄国体開催の取り組みから、運動公園を建設するに至った。



(2) 野球場

昭和62年国体 高校野球会場となる。

15.8haの公園区域には入っていない。国体直後から横浜ベイスターズがキャンプを開始。



(視察時の様子 : 宜野湾市)

(3) 屋内運動場

昭和59年度からの都市計画の一環で計画

当初計画では、野球場は整備されたが屋内運動場の建設はなかった。しかし、当時キャンプを誘致することになり、急ぎよ屋内体育館を建設した。課題は、修繕・更新の時期にきていることで、スポーツと観光を絡めた推進を図っている。



(屋内運動場[外観] : 宜野湾市)

2. 各施設の稼働実績は？ (365日を分母として)

(1) 市立体育館 85%

宜野湾市内の各団体や、プロのバスケットボールチーム等が利用している。

(2) 市立グラウンド 88%

宜野湾市内の体育協会やリアルマドリード、少年サッカーチーム等が使用。

(3) 市立野球場 52%

高校野球連盟・中学校野球連盟・日立・法政大学・DeNA等が使用。



(市立体育館[外観] : 宜野湾市)

3. 各施設の維持管理の現状と課題は？

■ 維持管理については、

平成25年から指定管理者制度を導入。市内36の都市公園と、市立グラウンド、民間の開発行為等や県の住宅公社が整備した公園も含めた69箇所を5年の期間で管理委託している。

■ 管理費については、

平成25年：2億3,000万円、

26年：2億3,100万円、27年：2億2,500万円

■ 改修・修繕の経緯については、

○野球場・・・平成19年度～25年度 **約3億円**で修繕

○体育館・・・同時期に**1億3,000万円**で修繕・改修

○海浜公園全体・同時期に、**約2億円**かけて修繕・改修



(野球場：宜野湾市)

■ 課題としては

○海岸沿いであることから風や日差しが強いことによる管理が難しい。

○野球場の照明施設が夜間の利用に対応できない状況。

○海浜公園は市民が使う公園であるので、ベースターズに特化した予算措置は難しい一面がある。

4. 質疑応答・質問に対する回答から (その1)

○ 指定管理者について

Q・・・ 市内の都市公園を含めて69箇所の公園を1業者に委託させる事の是非は？

A・・・ 以前から公園、ビーチ等を管理していた業者が、合同で新しい会社を組織して指定管理者として手を挙げた。それぞれの専門分野で管理していただけると認識している。

○ 公園管理について

Q・・・ 日向市では、地区の公園は自治会(区)に委託する形で管理を委ねているが宜野湾市では、その様な管理の考え方はないのか

A・・・ その方法も考えたいと思うが、導入に当たっては住民との話し合いが必要であり、契約を結ぶ必要があることから、現在はそこまで至っていない。

○ 施設の更新計画について

Q・・・ 30年前に整備された施設について、長期ビジョンや計画として現施設の耐用年数をいつ頃までと考えているのか。

A・・・ 国からの指導による公共施設の管理計画を作成中で、この中で体育館や教育施設については市の方向性が定められる。決まったことは、屋内運動場は補助金の要請を行い、建て替え計画が進行中である。位置的な問題・規模等はこれから詰めていく。

4. 質疑応答・質問に対する回答から (その2)

○ キャンプによる経済効果は？

Q…… キャンプによる経済効果の把握は如何か。県全体の効果額として考えているのか

A…… キャンプにより商業施設が増え、人が来るようになってきた効果も見えてきた。しかし、それがどのくらいの効果があるのかについては、出せない部分と認識している。

○ プロ野球キャンプと地域との繋がりについて

Q…… プロ野球キャンプが30年間続いていることで、地域を巻き込んだ活動や交流の取り組みがあれば何う。

A…… 友の会があり、少年野球チームとの交流や野球教室等の開催など様々な交流活動を行っている。選手が学校等を訪問するのではなく、子ども達に球場に来てもらう行事により選手と交流している。

○ 野球場の芝の管理は

Q…… 野球場や多目的広場の芝の管理はどのようにしているのか？

A…… 野球場の芝管理は、外注で専門業者に委託している。委託管理料として年1,000万円の経費で、キャンプ前の夏芝から冬芝に替えるウインター オーバーシードという養生期間を設けて管理している。県内では、宜野湾市だけがこの様な芝の管理システムを導入している。

6. 宜野湾市の視察を終えた委員の所感 (その1)

- 海浜公園全体の老朽化とプロ球団の要望に応えるため、かなり市が施設の維持管理に、予算を割いている状況であるようだが、特別補助金があればこそこの印象を受けた。経済効果については、明確な答弁は無かったが、夏の行楽シーズン以外のオフに集客能力をかなり期待しているようである。
- プロ球団が 29年間も宜野湾市でキャンプしていることに市民の認知や理解度は深いと感じた。
- 施設の整備状況については、すばらしいものと感じた。が、建設事業費・整備費等の財源については、明確な答弁が得られなかった。
- 宜野湾海浜公園内に、各施設が整備され、ビーチと隣接していることで、年中利用者の足が絶えることのない総合運動公園であるが、施設整備等の費用対効果については疑問が残る。



(視察時の様子 : 宜野湾市)

6. 宜野湾市の視察を終えた委員の所感 (その2)

- 両市の施設を見学させていただいたが、正直歯が立たないと感じたところである。芝生の整備に関しても年間1千万の予算が付いているなど、今の日向市の状況から考えると現実的ではない。プロ野球に限らず、他のスポーツに焦点を当てた誘致も必要かと思う。今まで以上に本市の良さをどれだけPRできるかがカギと感じる。やはり誘致には莫大な予算と、施設整備を行った後の活用方法をしっかり考える必要があると感じる。
- 財源や、職員数の問題で、指定管理者制度を導入している。都市公園の管理について地域との関連性を問うたが、地域の考え方に差があるように感じた。ただ、サービスの提供体制については、関係する複合施設が歩いて行ける範囲内にあることは強みだ。



(視察時の様子 : 宜野湾市)

1. スポーツ施設建設の経緯について

(名護市)

2 1世紀の森公園が整備された経緯

昭和49年、工業開発・宅地開発用地として埋め立てされた26ヘクタールを、当時の市長の英断で、次世代のための植樹を行い、「21世紀の森」として整備に着手した。



(名護市視察時の説明スライドより)

(1) 野球場

昭和52年から供用開始、現在の野球場の大きさは、両翼97m センター最深部が118m
でプロ規格より若干足りない。

年間稼働率は、51.5%。隣接する第2球場の稼働率は32.6%。

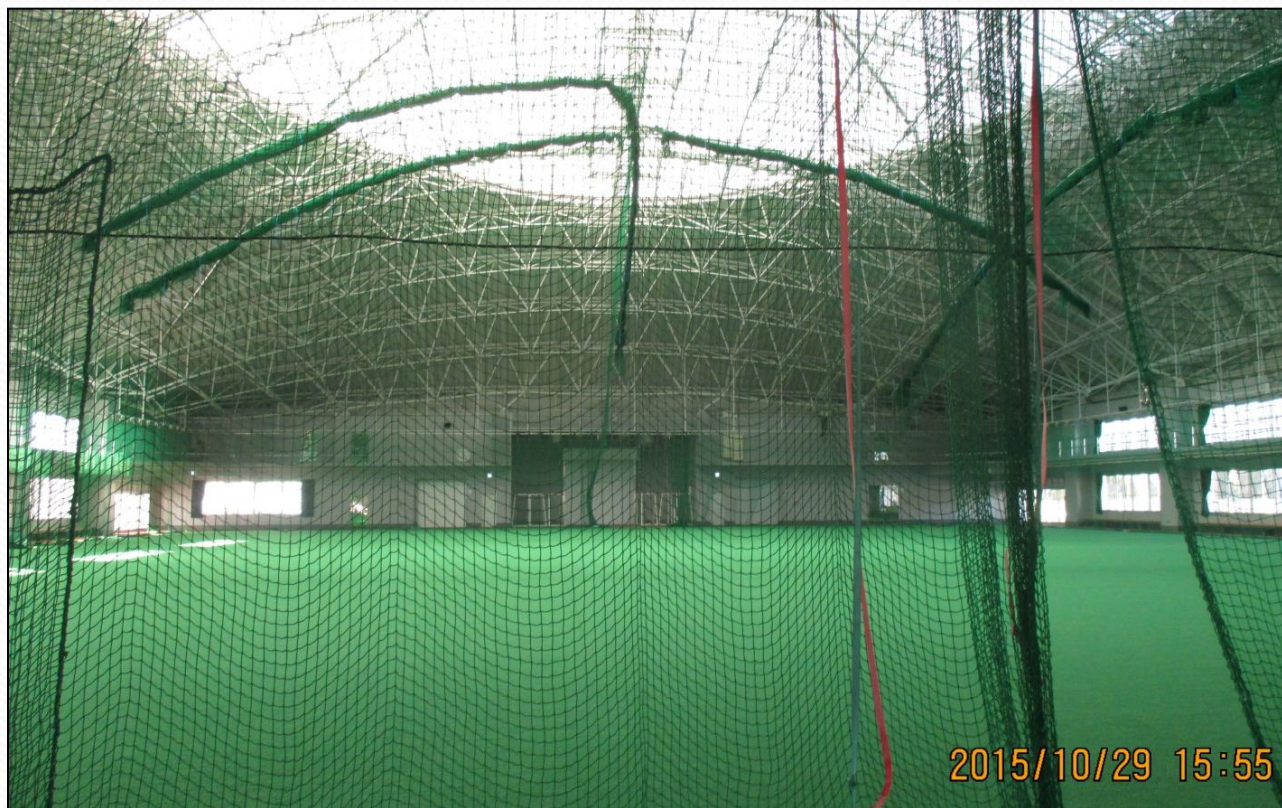


(野球場 : 名護市)

(2) 屋内運動場 ……名護市には屋内運動場が2ヶ所整備されている。

A : 平成 3年4月供用開始 : アリーナ面積(55m×55m), 年間稼働率:245.4%

B : 平成24年1月供用開始 : アリーナ面積(72m×55m), 年間稼働率:377.2%
(名称: あけみおSKYドーム)



(A : 屋内運動場 : 名護市)



(B : あけみおSKYドーム : 名護市)

2. 各施設 維持管理の現状と課題は (その1)

☆施設名…市営球場・第2球場・屋内運動場・SKYドーム・サッカー・ラグビー場
野外ステージ・200mトラック等

財産管理課にて施設の維持管理は行っている。
指定管理者制度の導入については 現在は考えていない。(財産管理課)

★施設名…**体育館** ・ **陸上競技場**

管理運営については、NPO法人名護市体育協会が指定管理者として実施。
維持管理費：**年3,000万円**。指定管理委託料：**1,941万円** (社会教育課)



(A : 屋内運動場 : 名護市)



(市立体育館 : 名護市)

2. 各施設 維持管理の現状と課題は

(その2)

■維持管理費・使用料収入について

(財産管理課所管)

市内57箇所の都市公園の維持管理費と、21世紀の森公園維持管理の予算が、同じ予算として組まれている。個々の施設の維持管理費は存在しない。

○維持管理費 … 平成26年度の維持管理費
総額は、1億8,106万円。

○使用料収入 … 施設使用料金収入は、
各施設合計で1,700万円。

(社会教育課所管)

NPO法人名護市体育協会が指定管理者として維持管理を行っている。

○維持管理費 … 年間 3,000万円

○使用料収入 … 施設使用料収入は、年間890万円



(視察時の様子 : 名護市)

4. 質疑応答・質問に対する回答から

(その1)

○ 本球場の芝の管理について

Q・・・ 本球場の芝の管理に要する年間経費は？

A・・・ 芝生だけの管理費を算出したことはない。具体的な数値を出すことは難しい。名護市は自前で芝生管理している。使用している土は赤土を使用。本土から年間200万円程度黒土代として購入している。

○ 指定管理者について

Q・・・ 施設の管理が2つの窓口に分かれていると判断していいのか。また指定管理者での施設管理導入の議論は無かったのか。

A・・・ 施設の管理方法は2つの窓口がある考え方になる。指定管理者については将来的には考えていかないとはいけないとは考えている。

○ 庁内の連携について

Q・・・ 施設の維持管理担当課とスポーツキャンプ誘致の担当課との連携は。

A・・・ スポーツ施設の維持管理については、財産管理課が担当し、スポーツキャンプ誘致については、商工観光課で担当。利用期間・時間スケジュール等まとめ次第、財産管理課で施設の予約等を行う。

4. 質疑応答・質問に対する回答から

(その2)

○ スポーツキャンプ誘致について

Q・・・ スポーツキャンプ誘致に関する事業内容、活動状況は如何か。

A・・・ スポーツ合宿の誘致事業については、平成25年度から宿泊助成事業を実施。市内宿泊施設を利用する団体には、3泊以上宿泊で1団体上限10万円の助成。25年度実績は、野球1件・陸上2件、26年度は野球3件・陸上4件の実績。

○ プロ球団誘致による地元を巻き込んだ事業の展開は

Q・・・ 日本ハムと30数年の関係と理解するが、地元を巻き込んだ事業等は如何か。

A・・・ 日本ハムと協力して行っているのが少年野球教室で、練習後の約2時間の時間で、子ども達200名が参加している。プロを目指す意識付けとしての事業。

○ 施設整備と市民のニーズは

Q・・・ スポーツ施設整備を展開するなかで、市民の反応は如何か。

A・・・ 市民からの要望としては、現在、武道館・陸上競技場が50年以上を経過している。スケートボード場の整備要望もあるが、設置場所・予算面の課題があり、未整備の状況となっている。

5. 名護市の視察を終えた委員の所感 (その1)

- 特筆すべきは、芝の管理などすべての維持管理が職員が行っていて、技術・いきごみは素晴らしいと感じる。管理専門の職員を雇用して、一般職員と協力しながら、良好な維持管理が出来ていた。見習うべき事例だ。
- 芝生の管理を職員が自前で行っていることには驚かされた。宜野湾・名護両市とも予算が潤沢であることから、本市が参考にすべきことは少なかった。名護市のキャンプによる経済効果は、年間7億～8億円と試算しており、費用対効果を考えても日向市の進むべき方向は意見が分かれるところと思った。
- 財産管理課と社会教育課の両課で、それぞれの施設維持管理されているが、連携はどうか、無駄は無いのかと思った。
- 海岸に近いことで、台風時の施設の維持管理が大変と感じた。宜野湾・名護の両施設ともキャンプには素晴らしい施設が整備されていて、お倉ヶ浜とは比較にならない。



(視察時の様子 : 名護市)

5. 名護市の視察を終えた委員の所感 (その1)

- 宜野湾市同様、プロ野球がキャンプを行うには素晴らしい施設である。現在の日向市が、このような自治体と誘致合戦をしても勝てないと正直感じる。プロ野球だけに限らないスポーツ誘致を行うなど、角度を変えた戦略が必要。
- スポーツ施設については、日向市よりも整備されていることは事実だ。行政の考え方として、スポーツキャンプの取り組みが強いと理解する。課題としては各施設の稼働率をいかにあげていくか、全市的な取り組みの充実が図れるか。施設管理での直営と、指定管理のすみわけ、市民が納得する理由付等は、どう考えていくのだろうか。



(視察時の様子 : 名護市)

3. 南風原文化センター（戦争遺産の見学）



（ 南風原文化センター視察時の展示資料 ）



（ 視察時の様子 ）

沖縄陸病院豪の患者に飯を運ぶひめゆり学徒達の様子（展示）

3. 南風原文化センター ・ 沖縄陸軍病院南風原壕群20号



(視察時の様子：南風原文化センター)

5. 南風原文化センターの視察を終えた委員の所感 (その1)

- 南風原町での戦争を風化させない取り組みが厳然と続いている。南風原豪での生々しい当時のそのままの状況を見て息をのんだ。文化センターのそこかしこに、まだ死者の遺骨が存在するという。日向市と縁深い南風原町を視察する機会を得て、特別有意義な視察となった。
- 南風原文化センターでは、「南風原町の沖縄戦」での沖縄陸軍病院南風原豪の再現展示から県内の戦争遺跡まで紹介されている。豪では、体験寝台や手術台遺物等があり、当時の凄惨な様子を物語っていた。改めて平和の大切さを感じるとともに、絶対に戦争を再び起こしてはならない我々の覚悟を問われた視察となった。
- 記録としてみる生々しい戦争の悲惨さと、職員の方からのあつい平和への思いを学び、貴重な体験をした。日向市の子ども達にも是非体験させたいものである。



(視察時の様子 : 南風原文化センター)

5. 南風原文化センターの視察を終えた委員の所感 (その2)

- 第二次世界大戦沖縄戦当時のことを想像しながら、説明を聞いていた。再度ゆっくりと訪ねて、地元の人達と言葉を交わすことが、私たちの役割かも知れないと思う。人間の忍耐力に頭の下がる思いである。
- 沖縄陸軍病院南原壕群20号を見学させていただいたが、天井の高さが1.8mと非常に狭い空間であった。当時通路には、横幅90cm程度の寝台が2段付けされており、上の段が重症患者が、また、下の段には比較的軽症の患者が寝かされていたと聞いた。沖縄戦の悲惨さを実感する施設見学となった。
- 私は、戦後生まれ育った。資料館を視察してどのような生活をしていたのか想像もつかない。また、負傷者が陸軍病院(壕群の中)に搬送されても、設備・医療品もなくし治療も出来なかったと聞き、胸の痛む思いであった。子ども、孫達の為にも、二度とこのような過ちをしてはならないと感じた。



(視察時の様子 : 南風原文化センター)

宜野湾海浜公園に設置されているビーチ



ご清聴ありがとうございました!!